

七夕空襲「風化させない」

敗戦の年の七夕の日に、千葉市の中心部を焼き尽くした空襲を語り継ぐと、「平和のための戦争展」を7月に開く準備を市民団体が進めている。「展示のために戦争当時の品々を貸して下さい」「戦争体験がある方は語り部になってくませんか」と市民に協力と参加を呼びかけている。

「千葉市空襲と戦争を語る会」(白井進代表)と「ちば・戦争体験を伝える会」(市川まり子代表)の主催。7月7日に、「戦争を繰り返さないための集い」をきぼーる(千葉市中央区)を会場に

例年通りに開催する。

戦争展は新たな試みとして企画し、7月7〜10日に同会場で開催する計画だ。白井さんたちは、市民の戦争体験を「1000人の証言」としてまとめ、2009年に出版。その本を配るために市内の学校を全て回ったが、千葉が空襲に遭ったことを知らない校長がいるのに驚いた。「教科書に載っていません」と語った校長もいたという。

「市民が巻き込まれた戦争の体験を分かりやすく伝えなくては」と事務局を務める伊藤章夫さんは戦争展の狙いを語る。

「語る会」では千葉空襲の犠牲

千葉の市民団体、戦争展企画

朝日 者名簿の整備も進めてきており、戦争展で公開する計画だ。犠牲者数もはつきりしない状態で、1200人近いものから、800人台までと資料によって様々だという。

「広島や長崎では原爆による犠牲者名簿があり、沖縄の平和の礎には犠牲者の名前が全て記されている。ところが、千葉ではどのような人が亡くなったのか実態が分からない。これではいけない」と白井さん。個人情報にあたるとして市の協力を得られず、市内の全てのお寺を訪ね、古くからの町内会にお願いして調べた。その結果、約450人の名前が明らかになったという。

戦争展や犠牲者名簿についての問い合わせは伊藤さん(080・5305・3739)へ。

夏平和